

て随時、改
「しなへてい
も」『煮る
へ小型辞典で
慣用句も入
ない言葉にも
や読み、語
際まで無限に
を千年前の
3年前の雑
ターやプロ
言い回しか
条件を設定し
発音やアクセ
は、日本語を
「やすい」
には日本語は

「動詞。身
り、という意
リングを脱ぐ
『する』と
のか、ないの
』をどう使
が辞書を引か
得している二
分らない。
り込めるネッ
。観光客、留
日本にお金を
を増やさねば
日本語を使っ
必要です」
カタカナと表
音は母音が五
音など同音異
せしみに「な
ことは多用
にも使われ
葉遊びは日常
シンプルなの
です。日本語
言葉と辞書の
いものになる

は、日本語学
なる、と。
いんです。僕
究していま
何を言えば笑

短い中学校の昼食時間

噛まない子どもたち



ふじき たつや
藤木 辰哉

歯科医師（愛知県）

中学校の昼食時間が短いと、患者さんの母親からしばしば訴えられる。私が聞くと、ころ、昼食時間は通常で15分、前の授業が延びたりすれば、5分ぐらいしかない日もあるという。

これでは、きちんと食事をするには短時間すぎないだろうか。中学校は、食べることの大切さについて、もう少し配慮をするべきだと考える。

近年、「噛まない人が増えた」とよく言われる。実際、食べる機能に問題を抱えた若者が潜在している。

私の医院に通ってくる小、中学生の患者さんにガムを噛んでもらうと、頻繁に口の中へ指を入れてガムを動かしながら噛んだり、奥歯で噛むべきところを前歯で噛んだりするなど、普通に噛めない人が少なくない。

また、おにぎりを食べてもらうと、1個のおにぎりを30秒弱で食べ終える子もいれば、5分以上かかっても食べきれず、苦しそうにのみ込んでいる子もいる。

「食べる機能」に問題を抱えた中学生にとって、学校で昼食を短時間で食べることを強いられるのは大きな苦痛に違いない。中学校は、食べるのが遅い生徒のことも考えて、余裕をもった昼食時間を設定すべきである。

とはいえ、昼食時間を長くすると、早く食べ終わった生徒たちがふさげだして困る、という現場の考え方もあるだろう。

そこで、昼食時間には、一口最低30回噛んでからのみ込むよう、すべての生徒に指導してはどうだろうか。こうすることで、食べる機能の向上を期待できるうえ、食べるのが遅い生徒たちの負担も減るはずだ。

さらに、昼食時間を健康教育の一環とするのもよいだろう。昼食を食べながら「食」についての話を聞いたり、議論したりする。要は、昼食時間を単なる栄養補給の時間としないで、教育機関として

甲南大准教授

あべ まさひろ

就活する学
たり、自分探
ことはよくあ
ちが急に就活
になったわけ
会社に自分
現しようと思
きわめて標準
を可能にした
列など、会社
む日本型雇用
そうしたシ
と、仕事に自
にリスキーな
に、今の大学
しを重ねてし
からです。

いま「あの
定している」
は一部の一流
大学生には、
料が上がる見
そうに見える
いから、でき
めて公務員志
の仕事が自分
い込むことに
せようとする
もともとサ
ていた学生も

コンサ 検索